

矯正治療のためのアトラス 咬合と顎顔面頭蓋の バイオメカニクス

三谷英夫 著

ISBN 978-4-88700-078-0

矯正治療のためのアトラス 咬合と顎顔面頭蓋の バイオメカニクス

三谷英夫 著



東京臨床出版

矯正治療においては、マニュアル通りに装置を作製し、マニュアル通りに装置を装着すれば、目的通り歯は動く。これは昔も今も変わらない。

しかしながら、加えられた力に生体がどのように反応し、歯が動くのか、つまり顎顔面頭蓋のバイオメカニクスを正しく理解しておくことは、多様なテクニックをマスターし、自在に駆使するための基本的な要件でもある。

本書はそれら多様なテクニックの生物学的背景である顎顔面頭蓋のメカニクスを解剖学的、かつ精緻なイラストで図説したカラーアトラスである。

著者は、30数年前の訳書である「バイオプログレッシブの治療法 (Ricketts 著)」の例をみるまでもなく、顎顔面頭蓋のバイオメカニクスについての造詣は深く、本書ほど顎顔面頭蓋のバイオメカニクスを体系的、かつ顎顔面頭蓋と矯正治療は言うにおよばず、全身の健康との関係をも視野に入れたアトラスは他に例をみない。

前作の「エッジワイズ法入門(東京臨床出版)」に続く、著者の歯科矯正学の集大成である。

著者 三谷英夫
(元東北大学矯正学講座教授、同大学副総長ほか)
体裁 A4判、130ページ、フルカラー、
上製本、外函付き
定価 9,000円+税
総発売元 (株)ロッキーマウンテンモリタ
発行 東京臨床出版

〔著者略歴〕

大阪歯科大学卒業、米国イリノイ大学大学院修士課程修了
東京医科歯科大学助手、イリノイ大学助教授・主任教授代行を経て東北大学
歯科矯正学講座教授、歯学部長・歯学研究科長、副総長歴任。
定年退官後、東北大学特別講師、中国大連医科大学、イリノイ大学、韓国
慶北大学、デンマーク・オーフス大学で客員教授。
American Association of Orthodontists, Edward H. Angle Society of
Orthodontistsをはじめ、欧州各国、カナダ、豪州、中南米、中国、韓国、
東南アジア各国で講演多数。

お申し込みは、お出入りの歯科商店、または最寄りの(株)ロッキーマウンテンモリタまで。

一顎顔面頭蓋のメカニクスを解剖学的、かつ精緻なイラストで図説一

緒言

バイオメカニクス (Biomechanics) とは？

第1章 咬合の概念

先進社会における“よい咬合”
正常咬合と不正咬合

第2章 咬合をとりまく筋機能の構造

頬筋と口輪筋の連携
頬筋筋束交叉
口輪筋の関わり
翼突下顎縫線と上咽頭収縮筋
頬筋バンドと頬筋機構 (Buccinator mechanism)
口唇閉鎖のメカニズム
口唇閉鎖線の位置
舌の位置
舌の成長
歯列弓安定域
舌の歯列弓支持機構
完全頬側咬合：Brodie syndrome
舌による咬合破綻

第3章 歯列弓形態形成に関わる顔面筋

口角挙筋と口角下制筋
上唇挙筋と頬骨筋
オトガイ筋

第4章 顔面骨格と歯列弓の形態

上顎前突症の場合
下顎前突症の場合

第5章 顔面生理機能不全と不正咬合形成

鼻咽腔の構造
口呼吸
アデノイド様顔貌
口呼吸による不正咬合形成機序
口蓋扁桃肥大による不正咬合形成機序

第6章 上顎と下顎の相対的位置

頭部形態と頭蓋底成長の関わり

頭蓋底軟骨結合部の成長

頭蓋底補償機構 (Grainal-base compensation)
頭蓋底角の関わり

第7章 筋の頭部コントロール

筋の生理
下顎安静位
筋の下顎コントロール
筋の頭部姿勢コントロール
頭部姿勢変化に伴う顎位の反応

第8章 咬合の構造と機能的順応性

咬合の正常像
正常咬合に関わる条件
正常咬合の分類
上・下顎歯の接触関係
中心咬合位の咬合面接触関係
上・下顎歯の接触関係の機能的構造
咬合力の衝撃緩和と分散
咬筋の筋力支持機構
顔面形態と咬合力の効率性
蝶番運動と滑走運動
滑走運動の利点
下顎前方運動と側方運動の仕組み
下顎頭と下顎窩の形態的变化
下顎頭の垂直的変位
乳臼歯咬合面の咬耗発現機序
スピーの彎曲
犬歯咬合誘導

第9章 外力に対する上顎骨および下顎骨成長の反応メカニクス

顎顔面頭蓋の成長
チンキャップ整形力に対する下顎頭の臨床的反応
サービカル・ギア整形力に対する上顎骨成長の反応
上顎骨急速拡大に対する上顎骨の形態的反応

あとがき

✂ キトリ

『矯正治療のためのアトラス 咬合と顎顔面頭蓋のバイオメカニクス』 申込書

氏名	
医院名 (大学名)	電話 () —
お届け先	-----
歯科商店名	